

「あこがれの自分を目指して ～共に歩む！一人でも翔ぶ！～」

平成29年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成30年2月16日(金)発行 第 42 号 発行責任者:高橋 弘悦

最高の天気にも恵まれました 平成29年度スキー教室



前日は大雪、翌日はしんしんと降り積もる雪…の間を縫うように、絶好のコンディションのもと、9日1, 2年生のスキー教室を、フェアリーランド金山スキー場で実施しました。

近年、アジアで有名になりつつある只見川沿いの絶景も素晴らしかったのですが、晴れ上がったスキー場頂上からの景色も最高でした。圧雪したてのゲレンデ、晴れ上がった青空を眺めながら、楽しい一日を過ごすことができました。



昨年度から柳津中学校との合同開催で行っていますが、今年は統合の前年ということで、両校シャッフルしてのグループ編成を行い、両校のきずなをさらに進めた行事としました。指導も両校の保護者の方々のご協力をいただき、とても充実したものになりました。

終わった…今こそ大切！修正する力

13, 14日の両日、1, 2年生の最後の定期テストが行われました。もうこれから春休みまでテスト勉強に悩まされることはありません。（受験生は別ですが…(*_*)）開放感に浸りたいところでしょうが、実は試験が終わった今こそ、4月からの学校生活を充実させる大切な時期なのです。

3年生の教室にあるNHKの番組の内容をまとめた「テストの花道」には、次のような記述がありました。

「ある花道の先輩は、テストの答案用紙が返されたとき、点数ではなく解けなかった問題に注目していたといいます。すなわちまったく太刀打ちできなかったのか、少しは溶けたが最後まで答えが出なかったのかを確認した上で、勉強法を修正するかどうかの目安にしていたのです。」

返された答案には、自分が取り組むべき課題のヒントがいっぱいつまっています。学習不十分なところ、準備勉強の進め方、普段の授業の受け方…。しばらくの間試験のプレッシャーに追われることのない今だからこそ、じっくり自分を振り返り、統合中学校でのスタートダッシュに備えて欲しいと思います。



今年もあと少しになりました。

親は子を 育ててきたと言うけれど 勝手に赤い畑のトマト

(「サラダ記念日」俵万智著)

大人の入口に立つ前の今だからこそ、親が子に伝えておきたいものがあります。「親」として、待ちに待った子どもと出会った感動、そして苦勞とは思わなかったけれども大変だったことなどを。

「あなた」の家族や親戚が「今か今か」と待ちわび、期待と祈りと歓喜の中で、まさに周囲のみんなに祝福されながら「あなた」は生まれてきたことを。

そして大切に大切に育てられてきたことを。

時には家族でアルバムを開いて、

長い家族の歴史を振り返りながら、

「あなた」の生まれた日のことや

それまでの母親の苦勞・喜び・期待と不安

父親の心配りなどを話してあげたい。

まだ歩き始めない頃、

目をそらさずジーッと見つめていたこと。

そして、初めて笑い、泣き、立ち、歩き、話した言葉。

おむつをしていた頃、おむつが取れた時、初めてお手伝いした時、小学校への入学、運動会、授業参観、そして中学校生活……

「あなた」は、ずーっと家族の中心であり続けている。

時には、そんなことを少しずつ思い出しながら話してあげたい。「あなた」の名前にどんな思いを込めたかなどについてもいつか話してあげたい。「かけがえのない名前から「かけがえのない命」「かけがえのない命のつながり」を伝えていきたい。そんな家族の一日を、特に年越しや正月・誕生日などには家族だけで振り返る幸せな時間を持ちたい。それは自他を大切に作る心につながっていきます。

